

てんじ かんしょう
展示を楽しむための鑑賞ガイド

さいちょう てんだいしゅう
最澄さんと天台宗



さいちょう
最澄さん (767-822)

伝教大師（最澄）像
室町時代 15世紀
滋賀・延暦寺蔵

日本で「天台宗」という仏教の教えを
広めた最澄さんってどんなひとだった
のかな？ポクと一緒に見てみよう！



伝教大師 1200 年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」 会期：2022 年 4 月 12 日～ 5 月 22 日

会場：京都国立博物館 平成知新館

編集：京都国立博物館 教育室

発行：2022 年 4 月 12 日

最澄さんってどんなひと？

奈良時代

767年 おうみのくに（現在の滋賀県大津市）生まれ。幼い時からとても優秀。

780年 13歳で出家。

785年 20歳で一人前のお坊さん（僧）となる。

しかし、わずか三か月後に比叡山に籠もり、修行を始める。

多くの人を救い導いていける
強い自分になるまで、山を
下りないと決めたのです



すごいリン……

788年 比叡山に最初のお堂を創建する。

自分で彫った薬師如来の仏像を置き、「不滅の法灯」を灯す。

奈良時代に日本にもたらされた天台宗の経典に触れる。

「すべてのものが仏になれる」という『法華経』の教えに心ひかれる。

平安時代

804年 桓武天皇の後押しを受けて中国（唐）に留学する。

天台山などで本場の天台宗の教えを学ぶ。

805年 帰国。

806年 天台宗が日本の正式な仏教として認められ、全国に教えを広める。

815年 今までの基準と異なる、天台宗の僧としてふさわしい基準を定め、それを国に認めてもらえるように計画する。

他の宗派から反発はあったが、新しい時代には
新しい僧のあり方が必要だと訴えた。

革新的！

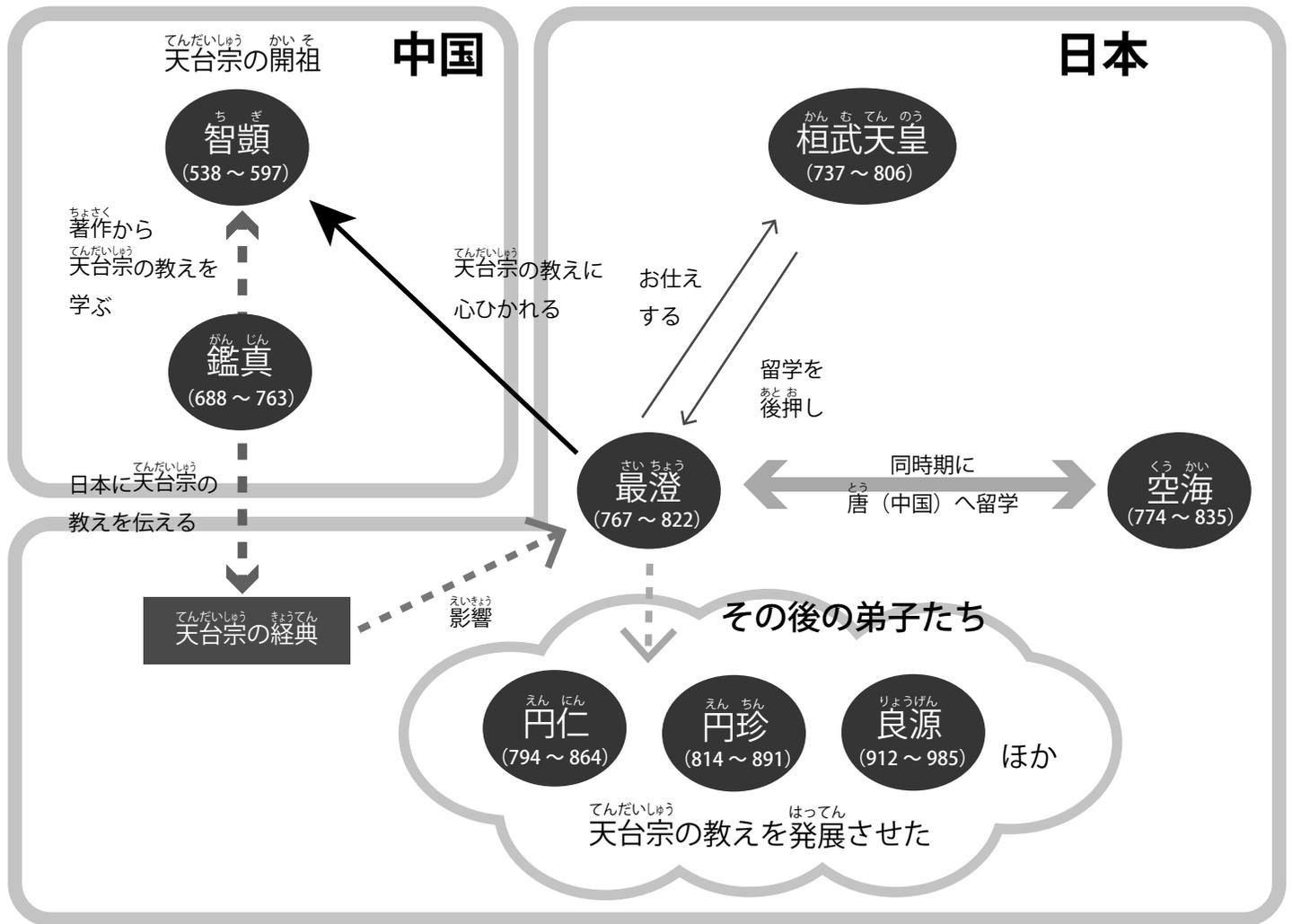


822年 嵯峨天皇が比叡山での新しい基準にもとづく僧の認定制度を認める。

その次の日、最澄が亡くなる。

最澄がひらいた延暦寺は、その後も多くの優れた僧を出し、あらゆる人を救うために彼らが説いた多様な教えは日本の文化に大きな影響を与えました。

さい ちよう 最澄さんを取りまく人々



みんな仏になれる！

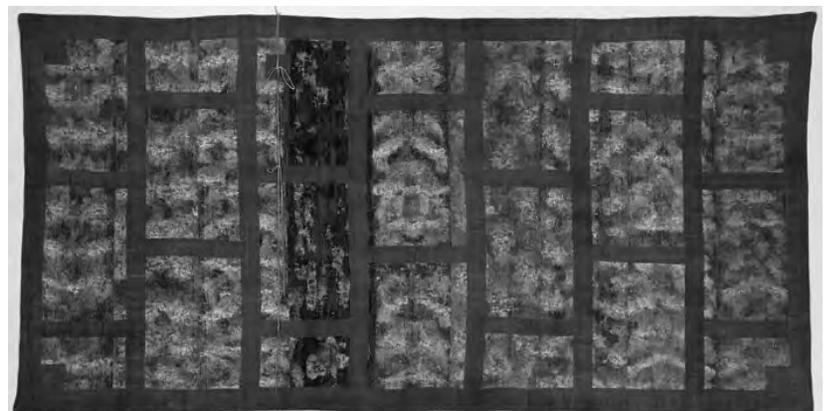
『法華経』は、天台宗で最も重んじられるお経です。「すべてのものが仏になれる」と説くため、信仰を集め、平安時代からたくさん写されました。

これは、紺色の紙に銀色の字で『法華経』を記したものです。巻物の最初にある絵は、お経の内容を表しています。最澄の弟子、円仁が自分で書いたものとされ、昔からよく知られて大切にされてきました。

重要文化財 紺紙銀字法華経 巻5 巻首 平安時代 10世紀 滋賀・延暦寺蔵 (巻5は4月12日～5月1日展示)

し しょう 師匠からもらった袈裟

中国の天台山・仏隴寺で、最澄が師の行満から譲り受けたという袈裟。袈裟はもともと、捨てられてしまうような粗末な生地を拾い集めてつないで作るのが最も良いと考えられていました。この袈裟も、ほぐした繊維や小さな布を寄せ集め、縫って補強して作られています。



国宝 七条刺納袈裟 中国・唐時代 8世紀 滋賀・延暦寺蔵 (4月12日～5月1日展示)

さい ちょう やく し によ らい 最澄ゆかりの薬師如来

えんりやくじ こんほんちゅうどう さいちょう ほ やくし によらいりゅうぞう
延暦寺の根本中堂には、最澄が自分で彫った薬師如来立像
がまつられました。そのお像は大変信仰を集め、その姿を写
したお像が作られました。この長源寺の薬師如来立像もその
一つです。頭の上の盛り上がりがなだらかな形になっている
ことや額がせまいこと、衣文をY字に刻むことなどの特徴
があり、最澄が作ったお像の姿を伝えています。

さいちょう
最澄さんのお像は、体は金色、
衣は朱色だったと言われているけど

このお像は全て
金色なんだね！



重要文化財 薬師如来立像 平安時代 10世紀 京都・長源寺蔵

あか 絶えることのない灯りと教え

こんほんちゅうどう えんりやくじ
根本中堂は、延暦寺の中でもっとも重要な
お堂です。最澄が最初に作った小さな庵から、
時代を重ねて整備され、現在のような形にな
りました。いまの建物は、織田信長の焼き討
ち後に、徳川幕府の援助を受けて1642年に
再建されたものです。

さいちょう やくし によらい ほんぞん
中央には最澄ゆかりの薬師如来（本尊・
秘仏）と、最澄が灯してからずっと受け継が
れている「不滅の法灯」が置かれています。

ほんぞん ほうとう さんばいしゃ
本尊と法灯と参拝者が同じ高さになる珍し
い構造になっていて、「誰もが仏になれる」
という教えを表現しています。



国宝 比叡山延暦寺 根本中堂内陣

ふめつ ほうとう
「不滅の法灯」を灯す、釣灯籠

あか
この灯りが多くの人に受け継がれ
この世界を照らし続けていくように、
仏の教えもずっと守り継がれて
いきますように



てん じしつ
1F-2展示室で堂内の様子を
再現しているよ！

てん じしつ つりどう 33
展示室の釣灯籠は実際に
使われていたんだって！

